

令和7年度第2回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	令和7年10月31日(金) 開 会 10時00分 閉 会 11時55分			
2 場 所	さぬき市立志度幼稚園 会議室			
3 出席者	市長		大山 茂樹	
	教育委員会	教育長	和田 浩二	
		委員	檜原 秀樹	得丸 慶子
			西尾 由香	岡田 保
	佐藤 美由紀		細川 史朗	
	教育総務課長		檜村 貴紀	
	事務局	生涯学習課長	大生 直樹	
		幼保こども園課長	真部 哲男	
		人権推進課長	山田 謙二	
		教育総務課主査	淀谷 幸世	
		教育総務課課長補佐	多田 端子(会議録調製者)	
その他説明 等のため出 席した者		幼保こども園課副主幹	石原 牧	
		学校教育課主任主事	土佐 卓矢	
4 会議に付した協議・調整事項	(1) 令和8年度の主な教育施策について (2) 学校における猛暑対策について			
5 特記事項	傍聴受付 なし(会場が教育施設のため、傍聴の実施は見合わせた。) 教育委員 多田 俊(欠席)			
6 会議内容	開 会			
教育総務課長	<p>ただ今から、令和7年度第2回さぬき市総合教育会議を開会します。</p> <p>この会議は原則公開とされていますが、今回は、幼稚園での開催としておりますので、園内の園児の安全確保等を考慮し、傍聴は見合わせることにしています。</p> <p>なお、会議の議事録については、後日、公表することとしています。</p> <p>また、本日は、報道関係者による取材を予定していますことを、申し添えます。</p> <p>それでは、会議次第に基づきまして、市長から御挨拶を申し上げます。</p>			
市長	(挨拶)			

教育総務課長	ありがとうございました。続きまして、教育長から御挨拶を申し上げます。
教育長	(挨拶)
教育総務課長	ありがとうございました。それでは、協議・調整に入ります。 ここからの議事進行は、さぬき市総合教育会議運営規程第3条の規定に基づき、市長にお願いします。
協議・調整事項	
(1) 令和8年度の主な教育施策について	
市長	それでは、議事に移ります。 令和8年度の主な教育施策について、資料に基づき、関係課長から説明をお願いします。
関係課長	(資料に基づき、令和8年度の主な教育施策について説明した。)
市長	令和8年度の主な教育施策について、各課長から説明がありました。教育長から補足説明はありますか。
教育長	主なものを説明していただきましたが、令和8年度については、今年度に引き続いて、様々な教育施策に取り組む予定としています。
市長	<p>それでは、私の方から補足して説明させていただきます。</p> <p>長尾中学校の改築事業について、現在、耐力度調査を実施中ですが、耐力度は低いと推測されます。</p> <p>施設の安全性を最優先とし、教育委員会で長尾中学校の在り方について早急に検討を進めるようお願いしている段階です。</p> <p>外国語教育の成果と今後の展開ですが、今年度、学校教育課が試行した「ピアラーニングハブを利用したサマープログラム」(2泊3日の英語漬け滞在型学習)は大変好評であり、来年度以降も継続する方針です。</p> <p>先日、香川県中学校英語弁論大会で優秀な成績を収めた生徒が表敬訪問に訪れました。彼らの成績向上にはALTの協力(原稿の添削やより自然な表現の指導など)が大きく貢献したようです。ALTを効果的に活用し実績を上げている点を評価し、令和8年度もALTを増員する方向で進めています。</p> <p>次に、公民館についてです。大川、津田、寒川地域で新しい公民館を望む声が高まっていますが、建設には、多額の費用がかかるため、すべてを同時に着手することはできません。今後は、優先順位を明確にし、他の公民館の機能と重複しないよう全体的なバランスを考慮した上で、市全体、ひいては香川県全体で利用できるような公民館整備を目指したいと考えています。</p> <p>次に、志度寺への支援についてです。創建1,400年を迎える志度寺については、令和8年度も引き続き、その素晴らしい建造物を後世に継承していくためのお手伝いを継続していきます。</p> <p>次に、就学前施設についてです。本日、総合教育会議の会場となっています。志度幼稚園は、全長70メートルの廊下を持つなど、教育環境は素晴らしいものの、園児数が少ないことが課題です。この優れた施設を何とか有効活用したいと考えております。具体的な活用案は、志度保育所との統合による「こども園化」、あるいは質の高い教育施設を目指す幼稚園のモデル的施設(「ザ・幼</p>

	<p>稚園」) とすることなどを検討中です。これらの案は、地域の子育て支援の在り方と並行して考える必要があります。就学前施設の在り方については、今後とも、教育委員の皆様にもご意見をいただきたいと思ひます。</p> <p>最後に人権教育についてです。社会が前進し、個人の意見が尊重される時代である一方、その陰で同和問題や人権侵害が発生しています。特にSNSの普及により、誹謗中傷による被害で苦しむ人々が増加しているのが現状です。</p> <p>人権教育は、市が要請して研修等に参加してもらうのではなく、市民一人ひとりが問題意識を持ち、自ら進んで研修等を受けることが理想です。</p> <p>さぬき市では、今後も様々な議論を重ねながら、市民が主体的かつ積極的に人権問題に関わってくれることを目指し、啓発活動を推進して行きたいと考えています。</p> <p>以上、補足説明等をさせていただきましたが、ご質問等ありましたら、お願いいたします。</p>
教育委員	<p>現在進められている就学前施設の在り方検討委員会の会議等については、その都度、会議の内容や進捗状況について、報告をいただいています。</p> <p>園児数が特に減少している幼稚園に関して、「園児が5名になったら閉園を検討する」という一定の方向性が示されているようですが、保護者は、将来的な閉園リスクを懸念し、園児数が少ない時点で、他の施設を選択する傾向にあり、これがさらなる園児の減少を招く要因となっています。このような計画性のない人数基準ではなく、施設をどうするかについて明確な計画を策定すべきです。</p> <p>子どもの減少スピードは想定以上に速いため、この問題は最優先で、とにかく急いで取り組むべき課題です。さぬき市として、幼稚園の将来像について明確な方向性を打ち出し、それを公表することで、保護者が安心して子どもを預けられるようにすべきです。</p> <p>特に志度幼稚園については、施設がまだ新しいうちに、こども園化するののかしないのかを含め、その活用計画を急いで進めるよう強く要望します。</p>
市長	<p>各施設の今後の方向性（存続、統合、こども園化など）を明確なビジョンとして速やかに決定し公表できるよう努めたいと思ひます。</p>
教育委員	<p>市は財政が厳しい中でも、長尾小学校や公民館などの施設整備（ハード事業）を着実に進めており、そのおかげで長尾・志度公民館の利用者が増加しています。特に、親子連れが幼稚園の帰りに公民館を利用するなど、新たな利用者の獲得につながっている点は高く評価します。</p> <p>今後は、施設整備に加え、教育の質を高めるソフト面の充実もお願いしたいと思ひます。</p> <p>今年度からすでに取り組んでいる外国語教育におけるALT（外国語指導助手）の増員は大変ありがたいことです。引き続きお願いしたいと思ひます。</p> <p>教育現場の主要な課題である不登校は、さぬき市も例外ではありません。不登校対策は喫緊の課題ですが、その解決策の一つとして、市独自の不登校対策専門教員を雇用・配置することを提案します。</p> <p>志度小学校で専門職員の配置により不登校が減少した事例を参考に、例え</p>

	<p>ば、退職教員を専門教員として各中学校区に配置するなど、人材確保や費用面での課題はありますが、ぜひ、市として、この取り組みを推進していただきたいと考えます。</p>
市長	<p>現在の学校現場は業務が増加しており、学級担任がすべてを担う体制には限界があります。</p> <p>医療分野で例えるなら、かかりつけ医、薬剤師、歯医者のように、いじめや不登校といった課題への対応には、学級担任の負担を軽減し、それらについての専門知識を持つ人材を配置する仕組み（分業体制）が不可欠です。</p> <p>ご意見を参考にさせていただき、この専門分化を進めることで、いじめや不登校のない、より良い学校環境の実現を目指します。</p>
教育委員	<p>全体的にみると、教育に関する予算をたくさん組んでいただいていると思います。これまでも、小学校や公民館等の施設を建設し、より良い環境が整備されています。長尾小学校については、まだまだ工事が続くので、引き続き、児童の教育環境への配慮をお願いします。</p> <p>今年度14名の中学生が参加した「さぬきピアラーニングハブを利用した英語学習」は、参加した生徒の満足度が高ければ、その評判が広まり、他の生徒にも波及し、学習意欲の向上につながる可能性があります。来年度は、予算の許す範囲で参加者を増やすことを提案します。</p> <p>公民館についてです。公民館の利用者は高齢者が大半であり、利用者が減少している施設もあります。今後は、規模を小型化してもよいので、子育て世代が気軽に立ち寄れるコンパクトで利便性の高い公民館の整備が理想です。公民館の存在意義が高まると地域の活性化が進みます。</p> <p>学校支援ボランティアについてです。学校支援ボランティアは、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っており、学校運営に不可欠です。今後もその力を借りて、学校を拠点とした地域活性化の機運を高めていただきたいと思います。</p> <p>就学前の特別支援教育については、本市が他市に先駆けて取り組んでいることを誇りに思います。</p> <p>就学前施設の在り方については、喫緊の課題であるため、スピード感を持った対応を求めます。</p> <p>人権・同和教育についてですが、市民講座の受講者を増やすことで、人権教育の輪が広がっていくと考えます。人権教育においては、「難しい」という先入観を払い、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に気づき、意識を変えることが重要です。また、学校行事の中で省略されがちな保護者への啓発についても、今後は学校への働きかけを強化すべきだと思います。</p>
教育委員	<p>長尾中学校の改築について、継続して対応いただいていることに安堵しています。施設の老朽化による危険性を考えると、児童数の増減に関わらず、積極的な改築をお願いしたいと思います。</p> <p>長尾公民館ですが、週末には、たくさん子どもたちが学習の拠点として活用しています。大変有意義な施設となったことを嬉しく思います。</p> <p>さぬき市は他市に引けを取らない素晴らしい取り組みを行っていますが、その情報が市民に十分に伝わっていないことが大きな課題だと思います。市の施</p>

	策や取り組みを市民に届けるため、今後はより一層、情報の発信について強化していただきたいと思います。
市長	<p>公民館や学校は、長年、地域のシンボルとして多様な役割を担ってきました。しかし、50年前に求められていた機能と現在求められている機能は大きく変化しています。</p> <p>公民館の在り方にも変遷があり、以前の「生涯学習の拠点」が主であった役割から、現在はそれらの機能に加えて、「子どもの居場所」としての機能や「災害時の避難場所」としての機能が強く求められています。</p> <p>また、学校の在り方も大きく変化しています。近年、「小1プロブレム」という問題があるようですが、そういった問題を解決するためにも、幼稚園から中学校卒業までの子どもたちの発達段階に応じた、学びと生活の一貫した教育を目指すため、従来の形にとらわれず、今求められている学校の在り方についても議論し、探求していく必要があると考えます。</p>
教育長	<p>先日、細川林谷記念館が開館1周年を迎えました。細川林谷記念館では、林谷の子孫の細川勝博氏から御寄附いただいた貴重な作品を展示し、市民に本物の美術作品に触れる機会を提供しています。</p> <p>また、京都大学名誉教授の柴田先生による宇宙落語の出前授業を中学校で実施しました。落語を通して、宇宙を学ぶ授業で、興味深い内容でした。</p> <p>さらに、中学生を対象に、オリックスのトレーナーによる運動指導を行いました。この指導は、生徒だけでなく、先生方にとっても有意義な指導となりました。</p> <p>これらの経験を通じて、たとえ一部の子どもたちだけが興味を持つ内容であっても、「本物を見る、本物を聞く、本物に触れる」という体験の価値が極めて重要であることを改めて認識しました。財政状況は依然として厳しいですが、教育は人による活動であるという認識のもと、来年度も「本物」を追求する教育施策に積極的に取り組んでいきたいと考えています。</p>
市長	<p>先日実施された市長会と香川県教育委員会が、教育行政全般について議論する機会を通じて、教育を受ける側の視点に立つことで、予算をかけずに実現できる教育改善策が多く存在することに気づきを得ました。</p> <p>さぬき市の人口減少対策の鍵は「教育」にあると私は考えます。さぬき市の教育が優れていると広く認識され、「義務教育の9年間はさぬき市に任せたい」という気運が高まれば、それがさぬき市独自の大きな魅力となります。</p> <p>ある識者の指摘にあるように、これからの社会で重要な要素は「食と農」「医療と防災」「教育と文化」です。「社会（地域）があって子どもがいる」のではなく、「子どもの教育があってこそ社会（地域）が成り立つ」という考え方を基本とし、教育と文化を地域社会の活性化に結び付けたいと考えています。</p>
(2) 学校における猛暑対策について	
教育総務課長 学校教育課長	(資料に基づき、学校における猛暑対策について説明した。)

<p>市長</p>	<p>学校における猛暑対策については、学校内（ペットボトルの水の提供、体育館等のエアコン整備等）と登下校時の二つに大別されます。今日は、主に、登下校時の猛暑対策について、ご意見等をお伺いしたいと思います。</p> <p>登下校時における安全確保は、原則として保護者の責務と認識しております。しかしながら、学校統廃合に伴う通学距離の延伸が、行政上の措置に起因する場合、登下校時の問題を行政側の責務と捉え、スクールバスを運行している状況です。</p> <p>スクールバスの乗車基準についてですが、国基準の4キロ以上に対して、本市では乗車基準を2.5キロ以上に設定しています。この2.5キロという距離は、特に低学年の児童にとって約1時間の徒歩移動に相当し、酷暑下での通学は教育環境として適切ではないとの懸念を抱いており、対応に苦慮しているところです。</p> <p>ただし、2.5キロ未満の児童であっても、障害者手帳の取得や医師による診断書の提出がある場合は、例外的に乗車対象としています。</p> <p>一方で、児童の体力向上を重視し、あえて徒歩通学を希望される保護者も一定数存在しています。</p> <p>現在、担当課において、乗車基準を2.5キロから2キロに見直した場合の対象児童数の変動、運行ルート等への影響について、詳細な調査を進めている段階です。調査結果は、でていますか。</p>
<p>学校教育課 主任主事</p>	<p>現在、乗車基準を2キロに短縮した場合の対象人数について、調査を実施中です。基準を2キロに変更すると対象者が増加するため、スクールバスの運行経路の変更が必須となり、現在のバスの台数では対応できない可能性があります。</p>
<p>市長</p>	<p>今後、基準を変更するにあたっては、すべての子どもたちにとって公平かつ公正な基準を設けることが不可欠であると考えています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>現在の気候は、昔とは異なり、真夏であれば、登校時間の午前7時には、すでに、非常に暑い状況です。また、児童のランドセルの重さも負担を増しており、この酷暑下の通学は非常に悩ましい問題です。</p> <p>この問題に対しては、「夏場のみ期間限定でバスに乗車させる。」という案もあると思います。いずれにしても、現行の2.5キロの乗車基準を緩和した時の人数と運行ルートについて詳細な調査を実施することが必要だと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>夏季における2.5キロの徒歩通学は、児童にとって大きな負担であると認識しています。乗車基準を緩和し、希望者全員の乗車を可能とすることが望ましいものの、その場合、現在のスクールバスの台数では需要を満たせない可能性があるということで、対応が困難な問題であると思います。</p> <p>今後の対応としては、一定の方向性として、登下校の責任は原則として保護者にありますが、保護者による送迎が困難な状況にある場合は、スクールバスの利用を特例的に認める対応が必要であると思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>乗車基準を緩和した場合、対象人数の増加に伴い、運行ルートの再編と必要</p>

	<p>なバスの台数の確保が求められます。しかし、現在の状況では、バスの台数を増やすことは難しいのが実情であると認識しています。</p> <p>そういった課題を度外視して、子ども達の教育環境の改善を最優先とするならば、小学1年生及び2年生については、通学距離に関わらず全員バスに乗車できるようにすることが妥当だと考えます。</p> <p>小学3年生以上の児童については、現行の基準（2.5キロ以上）であっても、保護者の合理的と考えられる希望に基づき乗車を可能とする希望制を導入すれば、猛暑対策については、解決できると思います。</p> <p>夏場だけは例外的にバスの乗車基準を変更するという試みもあるようですが、子ども達の生活習慣への配慮を考えると、期間限定の運行は好ましくないと考えます。運行期間は、通年とすることが適切であると思います。</p>
教育委員	<p>スクールバスの代替策として、さぬき市のコミュニティバスを活用し、保護者の判断で児童の乗車を可能とする、というのはどうでしょうか。ただし、この場合、自宅からコミュニティバスのバス停までの距離が遠い児童への対応が課題となります。</p> <p>また、関連課題として、日本の児童は通学時の荷物が多いという実態があります。この点についても、今後の通学支援等を検討していく中で、配慮していただきたいと思っています。</p>
市長	<p>市内全域に住民が広範囲に分散しているため、効率的なスクールバスの運行ルートを設定することが、現状、大きな課題となっています。現在のルートを維持しつつ対応範囲を広げる場合、バスの台数がさらに必要となり、多額の経費が発生します。</p> <p>代替策としてコミュニティバスの活用は取り組みやすいと考えられます。しかし、全地域をカバーできていないこと、バス停までの距離が遠い児童はどうするのか、いくつか課題もあります。</p> <p>今後は、これらの課題を踏まえ、コミュニティバスの活用について具体的な協議を行っていきたいと考えています。</p> <p>また、児童の荷物が多いという問題についても、教育委員会事務局において、具体的な対応策を講じていただきたいと思っています。</p>
教育長	<p>東部教育長会では、スクールバスの問題を何度も議論しています。さぬき市では保護者や市議会からの要望が多くありますが、他市では、少ないようです。</p> <p>お隣の東かがわ市では、通学距離が、小学校1・2年生は2キロ以上、3年生以上は3キロ以上が乗車基準となっています。</p> <p>今後は、他市の状況も参考にしつつ、現在の運行ルートの状況を踏まえて、今後のスクールバスの乗車基準と運行体制について担当課で検討を進めていきます。</p> <p>荷物の問題については、学校現場で検討を重ねています。教科書の重さが負担となっているため、タブレットを有効活用することで荷物の軽減を図りたいと考えています。</p>
市長	<p>スクールバスの問題については、令和8年度で一步でも半歩でも前進できれ</p>

	<p>ばと思っています。一部の意見に偏ることなく、公平かつ公正な判断に基づいた客観的な基準を確立し、コミュニティバスの利用も含めて、実効性のある解決策を検討したいと考えています。</p> <p>昔に比べて、今はとにかく暑いです。気候変動による猛暑の常態化は科学的に証明されており、今後も続きます。子どもたちのためにできることは、積極的に検討したいと考えています。ただ、スクールバスの問題は、解決策を見出すのが難しく、費用を投じても根本的な解決が困難な性質を持つ問題の一つです。引き続き、教育長とも協議を重ね、様々な対応策を提案させていただき、皆様からのご意見も伺っていきたいと思います。</p> <p>次に、その他の議題に移ります。</p> <p>これまでの議題も含めて、その他に懸念事項やご質問等がありましたら、ご発言をお願いします。</p>
教育委員	<p>茶臼山古墳についてです。茶臼山古墳は、四国最大の規模を誇り、形状も良好に保存されています。この古墳は、現在の古墳ブームを背景に、さぬき市の魅力を発信する重要なツールとなり得ます。</p> <p>文化庁の許可を得た上で、内部調査を実施し、埋蔵されているであろう貴重な遺品の発見に努めていただくことを要望します。</p>
市長	<p>今後、地域の魅力発信と活性化に寄与できる方策として、検討したいと思います。</p>
教育委員	<p>さぬき市の山手には、目立った観光スポットがありません。観光の目玉の一つとして、古代のロマンを体感できる場所「茶臼山古墳」について、是非検討していただきたいと思います。</p>
市長	<p>大串の「時の納屋」を拠点に、その周辺の観光資源として、本市特有の古墳の一つとして、茶臼山古墳を連携して活用していきたいと思います。</p>
教育委員	<p>さぬき市は多くの優れた取り組みを行っていますが、その広報が不十分で、価値や成果が市民に十分に届いていないように思います。</p> <p>例えば、歴史民俗資料館で開催中の「昭和、くらしの友」（昭和100年展）は素晴らしい企画ですが、開催を知らない市民が多いという課題があります。今後は、より多くの広報媒体を活用し、情報発信を強化すべきです。</p> <p>具体的な方法として、さぬき市の公式ホームページのトップ画面に「さぬき市のイベント」といった項目を設け、開催中のイベントの一覧をすぐに確認できるようにすれば、どうでしょうか。</p>
市長	<p>東かがわ市は、イベントが頻繁に記事に取り上げられています。さぬき市に比べて、東かがわ市は、広報体制が整っているようです。報道関係者に確認したところ、東かがわ市のプレスリリースは、開催行事の目玉や市の意図が明確で、新聞記者がそのまま記事を作成できるほど内容が充実しているそうです。</p> <p>さぬき市としても、広報の在り方を重要な課題と認識しています。現在、職員研修を通じて、情報発信の方法を模索・強化しているところです。</p>
教育委員	<p>市外からさぬき市へ移住する方に対する手厚い優遇制度は理解できますが、元々市内に住み続けている住民や、一度市外へ転出後に地元に戻って就職した</p>

	<p>住民も、地域社会の維持や活性化に大きく貢献しています。しかし、これらの定住・帰郷（UターンやJターン）住民には、移住者に比べて特典や支援が少ない現状があります。地域の貢献度に見合った、バランスの取れた支援策を求めます。</p> <p>地元に残って頑張っている子ども達もたくさんいます。</p>
市長	<p>「足元の人、地域に長く住み貢献している市民を大事にする」という基本理念を重視したいと常々思っています。どうしても、政策が外に向きがちですが、今後も、この理念に基づき、既存の市民やUターン者等に対する支援を強化し、市民の納得感と地域への愛着を高めることを市の施策に積極的に反映させたいと考えています。</p>
教育委員	<p>高校の統合によって志度高校が将来的に閉校されること、徳島文理大学が高松市へ移転したこと等、さぬき市から重要な教育・文化機能が失われる状況が続いており、地域が寂しくなっていると思います。市内の若者や活気の喪失に直結すると思います。この状況は、教育機会の減少だけでなく、地域全体が活力を失い衰退に向かうのではないかと懸念しています。</p>
市長	<p>移転後の徳島文理大学の建物については、現在、主に味噌製造を行う企業がその一部を利用している状況です。</p> <p>統合により閉校となる志度高校は、駅に近く立地条件が優れているので、閉校後の有効活用が期待されます。志度高校のほか、津田高校や石田高校といった統合対象となる他の高校の施設の活用方法についても、地域への貢献や活性化の観点から具体的な有効活用について、香川県とともに検討を進めたいと考えています。</p> <p>最後に、教育長から何かありましたら、お願いします。</p>
教育長	<p>子どもの数が減少している今、「地域とともにある学校づくり」が重要であると考えています。その実現のためには、地域と学校をつなぐ学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の役割がますます重要になっています。学校運営協議会と学校が一体となり、学校が地域の中心となることが理想です。</p> <p>しかし、教育委員会として、この取り組みの重要性に関する情報発信が不足していたことを反省しています。今後は、この学校運営協議会の活動や意義について、より積極的に情報発信に努めたいと考えています。</p> <p>学校現場では、猛暑対策をはじめ、対応すべき課題が山積しています。</p> <p>これらの喫緊の課題に対し、「学校支援ボランティア」の皆様のお力を借りながら、解決の糸口を一つひとつ見つけ、着実に課題解決に取り組んでいきたいと考えています。</p>
市長	<p>毎月、教育委員会の定例会があると聞いています。教育委員の皆様には今後も専門的なご意見をご提案いただきたいと思いますと考えています。</p> <p>子どもは、私たちの地域にとって、最も大切な宝です。これは、子どもたちが未来の地域社会を担い、発展させていく存在だからです。そして、その社会が長く栄えていくためには、一時的な対策ではなく、持続可能な取り組み、将来にわたって継続できるような仕組みや教育、環境整備が欠かせません。</p>

	<p>政権が変わっても、地方は自らの主張を国に伝え続けることが求められています。</p> <p>今後も、教育環境の向上を目指し、小さなことでも丁寧に実行していきたいと思ひます。そういった意味でも、この総合教育会議は、私にとって今後も重要な勉強の場として位置づけたいと考えております。</p> <p>今日は、令和8年度の主な教育施策及び学校における猛暑対策について、委員の皆様から貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回総合教育会議を閉じたいと思ひます。</p>
閉 会	
教育総務課長	<p>以上をもちまして、令和7年度第2回さぬき市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。</p>